

令和3年度

徳島県立富岡東中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

中高一貫教育の特性を生かし、
生徒一人一人に「確かな学力」をつける教育内容の創造

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
紅露 瑞代 (学力向上・研修・理科主任)	長尾真紀(教頭), 森岡宏文(教務・数学主任), 田所寿美(第1学年主任・英語主任) 坪井芳史(第2学年主任・技術主任), 中田里江(第3学年主任・体育主任), 大和富美(国語主任), 吉原美悠(社会科主任)

校長

宮井 玲夫 印

【小中連携または中高連携における共通の取組】

中高6年間の学習を通じた知識・技能の習得・活用につながる、中高の連携を図った授業づくり

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にまじめに取り組めたりできる生徒が多い。 ●発問にある解答の条件を的確に捉えて解答することに課題がある。知識・技能の習得・活用の一層の向上をめざす。	・学習を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・中高の教員と連携した授業づくり、および相互授業参観を行う。 ・富東タイムやRRCを計画的に実施し、個に応じた指導を積極的に行う。		・電子黒板等を利用したことで、発問の提示の工夫をすることができた。 ・高校との連携を図った授業づくり及び相互参観授業を2回以上実施した。 ・富東タイムに積極的に取り組んだと回答した生徒の割合は全体の89%、RRCを基礎的・基本的な学習に役立てたと回答した生徒の割合は全体の88%だった。	・中高6年間の継続的な学習指導を通して、生徒が知識・技能の習得・活用ができるよう、相互参観授業等をもとに高校と連携を図った授業づくりを行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ●課題に関する必要な情報等を取り出したり、複数の考えをまとめて新しい考えを創造したり、表現したりすることに課題がある。思考力・判断力・表現力等の一層の向上をめざす。	・各授業の課題等に関する話し合い活動等を行うことで、その解決のための方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において発表等の言語活動による表現ができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表等の言語活動を行わせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。		・授業のめあての提示の工夫としてICT等を活用し、ペア学習やグループ学習を設定した。 ・ICT等を活用した話し合い活動や発表等が全ての教科で増えた。 ・課題を解決するために、様々な考えを出しあう場面を設定し、「なぜ」、「どうして」を想起させるようにした。	・思考力・判断力・表現力の育成につながるよう、一人一台端末、デジタル教科書、電子黒板を効果的に活用した授業づくりを行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●各教科のバランスを考えた学習計画を立てて取り組むことと、継続的に自学自習をすることに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させたり発表させたりする。 ・定期的に生活実態調査を実施する。		・毎時間、授業のめあてが提示できた。 ・めあてと照らし合わせて振り返りを記述させ、次時の授業づくりや個別指導に役立てた。 ・生活実態調査を3回実施し、高校と調査結果を共有して指導に役立てた。	・個に応じた継続的な自学自習につながるよう、一人一台端末を効果的に活用した授業づくりを行う。 ・定期的な生活実態調査を継続して実施する。

令和3年度 学力向上ロードマップ

